# 平成30年度 学会・学術に関する委員会 事業報告

## 1. 活動テーマ

日本公衆衛生看護学会学術集会での全国保健師長会の企画提案(ワークショップ実施)及び 学術集会の企画委員及び実行委員としての参画

## 2. 目的

地域保健で働く保健師が調査研究やまとめを報告する場所を確保し、公衆衛生看護の専門職として自己研鑽や資質向上を図る

## 3. 実施状況

## (1)委員会開催

| □ | 開催日               | 場所      | 内 容  |
|---|-------------------|---------|--|
| 1 | 5月26日(土)          | 山口市菜香亭  | 【第1回委員会】 ・委員会の位置づけ・役割及び活動経過説明 ・平成29年度の活動状況及び引き継ぎ事項確認 ・平成30年度の活動計画協議(第7回日本公 衆衛生看護学会学術集会での全国保健師長会 ワークショップの企画検討及びスケジュー ル) ・各委員の役割分担 ○出席者 5名 |
| 2 | 7月14日(土)          | 山口市菜香亭  | 【第2回委員会】 ・ワークショップの企画検討 ・学術集会への参加確認 ・補正予算検討 ・次回作業内容の確認 ○出席者 5名  |
| 3 | 10月7日(日)          | カリエンテ山口 | 【第3回委員会】 〔ワークショップの準備〕 ・運営・進行・役割分担 ・講師等関係者への依頼 ・チラシ案の作成 ・アンケートの検討 ・当日準備 ○出席者 3名(県内委員のみ) ※台風のため、日程を変更して開催                                  |
| 4 | 平成31年<br>1月26日(土) | 宇部市文化会館 | 【第4回委員会】 ・ワークショップの最終打合せ ・講師打ち合せ ○出席者 5名  |
| 5 | 1月27日(日)          | 宇部市文化会館 | 【ワークショップ開催】<br>【第5回委員会】<br>・ワークショップのまとめ、振り返り<br>○出席者 5名  |

<sup>・</sup>上記のほか、随時メール・電話等での協議を実施

#### (2) 学術集会企画委員会への協力

| 口 | 開催日      | 場所      | 内 容                |
|---|----------|---------|--------------------|
| 1 | 平成 30 年  | 山口大学医学部 | ◇第7回日本公衆衛生看護学会学術集会 |
|   | 4月22日(日) |         | 企画代表者会議(企画調整)      |
|   |          |         | ○出席者 2名(県内委員のみ)    |
| 2 | 7月1日(日)  | 宇部市文化会館 | ◇第7回日本公衆衛生看護学会学術集会 |
|   |          |         | 企画委員会 (企画調整)       |
|   |          |         | ○出席者 2名(県内委員のみ)    |
| 3 | 平成 31 年  | 宇部市文化会館 | ◇第7回日本公衆衛生看護学会学術集会 |
|   | 1月11日(金) |         | スタッフ説明会(運営説明)      |
|   |          |         | ○出席者 3名(県内委員のみ)    |
| 4 | 3月9日(土)  | 山口大学医学部 | ◇第7回日本公衆衛生看護学会学術集会 |
|   |          |         | 企画委員会(反省会)         |
|   |          |         | ○出席者 1名(県内委員のみ)    |

#### 4 結果・課題

第7回日本公衆衛生看護学会学術集会において「地域に責任を持つ保健師活動〜管理期としての学びと継承〜」をテーマにワークショップを開催し、参加者は84名であった。

取組の報告として、2自治体の管理期に対する人材育成の状況について報告を受け、PDCAサイクルを回す実践型研修の重要性や、専門外の職種と連携して開催したスーパーバイズ研修の成果やその実践への反映などについて報告を受けた。また、研究の報告として、「保健師活動の継承」をテーマに、継承したい内容が①自分の思いや経験、②住民のために活動したいという思い、③活動の積み重ねが専門性につながること、であることや、継承のための重点は「活動の言語化」であることなどを学んだ。

これらを通して、保健師個々の成長が住民の力を引きだし、町づくりにつながるという示唆を得て、保健師活動を次世代につなぐ意識を持つこと、保健師の専門性を考え続ける組織風土づくり、さらには、伝える人をつくっていく人づくりの大切さについて考える機会となった。

また、アンケート結果からは、管理期世代自身の学びだけでなく、次の管理期となる世代から も、中堅保健師への期待、育ち合うことの大切さ、活動を言葉や文字に残すことや保健師活動を 考える必要性などの学びの発言があり、ワークショップ自体が継承の場となったことがうかがえ た。

#### 5. 委員

○辻下 淳子 山口県岩国健康福祉センター保健環境部

河上屋 里美 山口県萩市保健部健康増進課

石田 潤子 山口県柳井健康福祉センター健康増進課

青野 桂子 愛媛県中予保健所健康増進課

越智 澄恵 愛媛県今治市大三島支所住民サービス課